

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

5月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,756.90 (18日)	1,673.05 (1日)
国内建値(円/g)	: 6,093 (20日)	5,810 (7日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 107.27 (7日)	108.98 (20日)

5月の海外金相場は、1日に\$1,673.05/toz(トロイオンス)と前月末から下げてスタート。上旬にかけては、1日の水準を上回るものの、ほぼ\$1,700台割れでやり過ぎた。新型コロナウイルスの流行で停滞した経済活動の米国での再開に伴い、投資家心理が改善し、リスク回避時に買われやすい金から資金が流出したためであった。ところが、11日から月末にかけては、ほぼ\$1,700台前半でのしっかりした展開となった。一時的に\$1,700台割れを引き起こす場面が見られたが、すぐに\$1,700台に復帰し、地合いの堅さが確認された。18日には、新型コロナウイルスの感染拡大で世界経済減速への懸念が強まるなか、安全資産とされる金に資金が向かい、さらに景気の先行き不透明感や市場で米中対立の深刻化への警戒感などが高まったことから、\$1,756.90まで上昇し、2012年10月以来7年7か月ぶりの高値を記録した。下旬から月末にかけては、ドル高からやや下げたが、上記通り、ほぼ\$1,700台を保持した。29日には\$1,728.70と高値水準を保ちながら、越月した。

2. 為替相場推移

5月の為替相場は、1日に\$1=108.28円(TTS相場、以下同じ)と円が反落してスタートしたが、日本の連休を挟んで、新型コロナウイルス感染拡大の責任を巡り米中の対立が激化するとの懸念から、低リスク通貨とされる円買いが優勢となり、7日には、\$1=107.27円まで円が上昇した。その高値水準は11日まで続いたが、12日から月末まではほぼ\$1=108円台での小浮動推移となった。欧米経済再開への期待から投資家のリスク回避姿勢が和らぎ、円を売ってドルを買う動きがドルを売って円を買う動きを上回ったためであった。14日には、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長が13日の講演で米国の景気下振れリスクを指摘し、リスク回避の動きが広がったことで、やや円高に振れたが、すぐに沈静化した。15日以降は、上記通り\$1=108円台

の小動きが継続、新型コロナウイルス関連や米国の金融に関連する動きなどにやや影響を受けることはあったが、月末まで同水準を逸脱することはなかった。29日には\$1=108.53円をつけて越月した。

5月の対ユーロでの円は、連休明けの7日に、€1=116.21円をつけ、2016年11月以来、約3年半ぶりの円高・ユーロ安水準になった。ドイツ連邦憲法裁判所が5日、欧州中央銀行(ECB)の量的緩和について一部違憲と判断し、先行きの不透明感からユーロ売りが続いたからであった。その後は中旬から月末にかけて、ユーロが戻し、月末には再び€1=120円水準となった。

【国内】

1. 建値推移

5月の国内金山元建値は連休明けの7日に5,810円/g(グラム)と前の月の末につけた高値をやや下回ってスタートしたが、それ以降はほぼ6,000円水準前後で推移、海外相場の上昇基調のなか、記録的な高値水準での展開となった。

8日に5,900円台に復帰すると、その後数日間はやや下げたが、13日に反発すると、15日には6,000円台乗せとなり、前月に引き続き、過去最高値(6,470円)をつけた1980年(昭和55年)1月以来40年4か月ぶりの高値となった。また、同月以来の6,000円台で、過去最高に迫る勢いを見せた。しかしながら、20日に6,093円が月間として最高で、海外相場の若干の下げから、月内では同水準を上回ることにはなかった。月末にかけては下げ基調が続き、29日には5,960円をつけて、越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年4月分=令和2年4月分)

生産	: 7,796 kg	(前月比 31.1%減、前年比 6.0%増)
出荷	: 9,265 kg	(前月比 15.9%減、前年比 47.1%増)
在庫	: 3,898 kg	(前月比 27.4%減、前年比 21.0%減)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

4月の生産は前月比減、前年同月比増。後者は3か月連続の増。出荷は前月の反動と円建て価格の高騰から前月比減だが、前年同月比では前年レベルを大きく上回り大幅増。在庫は生産減から前月比、前年同月比とも減。ともに3か月ぶりの減。

銅

【海外】

1. 価格推移



(2018年5月～2020年4月の値は月平均)

- ・ COVID-19 感染拡大の影響による底値\$4,618(3月23日)からは経済活動再開が進み、徐々に回復
- ・ 5月22日、全人代での香港国家安全法の方針などによる米中対立懸念で下落

2. 需給動向

国際銅研究会(ICSG)の5月25日発表によると、2020年1～2月の世界の銅鉱石生産は325万t(2019年1～2月比1.9%増)、地金生産は385万t(0.6%増)、地金消費は372万t(2.1%減)で、地金需給バランスは+12.9万tの余剰だった。

この内、中国は鉱石生産が24万t(2019年1～2月比12.3%減)、地金生産は149万t(4.2%減)、地金消費は185万t(4.4%減)だった。その他、ICSGの主なコメントは以下の通り。

【鉱石生産】

- ・ チリは、2019年のチュキカマタ鉱山操業中止による生産制限や品位低下などから回復し4%増加
- ・ ペルーは、操業トラブルや悪天候などにより4%減少
- ・ 中国は、COVID-19感染拡大の規制による操業停止で12%減少
- ・ コンゴ民主共和国(DRC)は、一部鉱山の生産能力増強により5%増加

【地金生産】

- ・ 中国は、COVID-19感染拡大の規制による操業停止やスクラップ供給の逼迫などにより4%減少
- ・ チリは、2019年に新しい環境規制に対応するため一時的にチュキカマタ製錬所が操業を中止していたことから14.5%増加
- ・ 日本は、2019年に直島製錬所が定修を行っていたことから7%増加

【地金消費】

- ・ 中国はネット輸入が9%増加したが、製造業がCOVID-19感染拡大の規制を受け見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は4%減少
- ・ 主要消費国の中ではEU、米国が横ばい、日本は減少

また、ICSGは5月21日、COVID-19感染拡大の影響などにより2020年の世界の銅生産予測は前回発表(2019年10月)の予測よりも鉱石が約95万tの減少、地金が約11万3千tの減少になる試算を発表した。地金消費は2019年比で4%減少すると見込んでいる。

3. 供給障害

◆ ニュー・クレスト・マイニング、カディア金・銅鉱山の水不足解消へ(豪)

ニュー・クレスト・マイニング(豪)は5月20日、同国ニューサウスウェールズ州に保有するカディア金・銅鉱山の取水ダムについて、水位が回復し、操業維持の見通しがついたことを発表した。カディア金・銅鉱山の2019年生産実績は金28.4t、銅9万t(いずれも純分ベース)。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

5/1 590 5/12 610 5/15 600 5/20 610

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年4月分=令和2年4月分)

生産 : 117,700t (前月比 14.0%減、前年比 2.4%減)

出荷 : 118,656t (前月比 16.3%減、前年比 2.0%減)

在庫 : 103,978t (前月比 0.9%減、前年比 1.1%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2020年4月の銅地金生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は4か月ぶりの減少で2019年11月以来の低水準となった。出荷は前月比が6か月ぶりの減少、前年同月比は4か月ぶりの減少。内訳は内販が前月比6.8%増、前年同月比10.9%減の7万5千tで、それぞれ2か月ぶりの増加と10か月連続の減少。輸出は前月比38.8%減、前年同月比17.9%増の4万4千tで、それぞれ6か月ぶりの減少と5か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比12.0%減の4万6千tで7か月連続の減少、伸銅品向けは14.6%減の2万5千tで13か月連続の減少。在庫は前月比が3か月連続の減少、前年同月比は4か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

日本電線工業会によると、2020年4月の銅電線出荷は前月2020年3月比が12.1%減、前年同月2019年4月比が13.0%減の5万2千t(推定)と前年同月比は

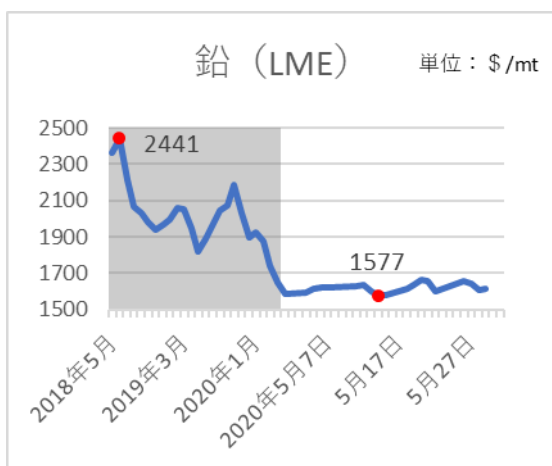
7か月連続で減少した。うち内需は前年同月比12.7%減の5万1千tで3か月連続の減少、輸出は23.1%減の1,000tで4か月連続の減少。内需の部門別では、通信が2か月ぶりの増加、自動車と電力が5か月ぶり、電気機械が20か月連続、建設・電販が3か月連続の減少となった。

日本伸銅協会によると、2020年4月の伸銅品生産は前年同月2019年4月比7.9%減の6万t(速報)と17か月連続の減少となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比0.3%増で15か月ぶりに増加。自動車端子向けの黄銅条は11.0%減で15か月連続の減少。コネクタ向けの青銅板条は24.9%増で3か月連続の増加。エアコン向けの銅管は11.7%減で3か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

1. 価格推移



- COVID-19 感染拡大の影響により依然として低水準、5月は\$1,500～\$1,600台を低迷推移
- 5月14日、\$1,576.50を付け、年初来安値を更新

(2018年5月～2020年4月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の5月20日発表によると、2020年1～3月の世界の鉛鉱石生産は110万t(2019年1～3月比3.4%減)、地金生産は271万t(7.1%減)、地金消費は270万t(7.4%減)で、地金需給バランスは+1.9万tの余剰だった。

この内、中国は鉱石生産が45万t(2019年1～3月比6.0%減)、精鉛輸入は15万t(19.0%減)、地金生産は101万t(15.2%減)、地金のネット輸入は0.3万t(94.2%減)で、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は104万t(12.9%減)となった。その他、ILZSGの主なコメントは以下の通り。

【鉛石生産】

減少要因は、主に中国(▲6.0%)、インド(▲17.8%)、カザフスタン(▲62.3%)での生産量減少によるもの。

【地金生産】

主な減少要因は、中国において COVID-19 の規制措置により第二次産業が影響を受けたことで生産量が減少したこと。また、グレンコア・カナダが加ニューブランズウィック州で操業していた年産7万tのブランズウィック鉛一次製錬所が2019年末に閉鎖されたことにより生産量が減少した。

【地金消費】

減少要因は、中国の大幅な減少(▲12.9%)によるもので、他に欧州(▲6.7%)、ブラジル(▲8.1%)、日本(▲11.7%)、韓国(▲3.4%)、台湾(▲26.8%)、米国(▲2.1%)でも需要が減少した。

また、ILZSGは5月20日、COVID-19感染拡大の影響により、世界の鉛生産量は鉛石が14万6千tの減産、地金が10万6千tの減産になる試算を発表した。国別の減産量については、以下の通り。(注)操業中止期間について会社発表がされていないものは、2か月間中止するものとして試算されている。

<COVID-19感染拡大の影響による世界の鉛減産量試算>

【鉱山】

(単位：千トン)

国名	通常生産能力	2020年通常生産見通し	COVID-19減産量
ボリビア	100	88	17
カナダ	25	20	8
インド	207	200	8
メキシコ	300	260	50
パルー	350	308	53
南アフリカ	67	43	9
スウェーデン	35	24	1
合計	1,084	943	146

【製錬所】

(単位：千トン)

国名	通常生産能力	2020年通常生産見通し	COVID-19減産量
ドイツ	180	105	60
インド	750	640	31
イタリア	80	—	13
メキシコ	180	119	15
合計	1,190	864	106

国際鉛亜鉛研究会資料を基に日本鉱業協会作成

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

4/1 249 4/7 243 4/24 240 5/1 234 5/12 240 5/18 234
5/26 237 6/1 240

5月はLME鉛相場が下旬にかけて上昇したが、鉛建値は僅かな変動に留まった。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年4月分=令和2年4月分)

生産 : 15,316t (前月比 34.8%増、前年比 5.0%減)
出荷 : 15,675t (前月比 14.2%増、前年比 3.0%減)
在庫 : 12,159t (前月比 4.2%減、前年比 5.4%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

4月の生産は契島製錬所の定修明けにより前月比増だが、前年同月比は竹原製錬所の設備トラブルにより減。出荷は前月の反動から内需が増加したことで前月比増だが、前年同月比はコロナの影響から抜け出せず2か月連続の減。在庫は前月比、前年同月比とも減だが、数量的にはほぼ横ばい推移。後者は3か月連続の減。

3. 需要部門動向

3月の自動車生産台数は前年同月比8.0%減の828,702台となり、6か月連続で前年同月を下回った。乗用車は前年同月比6か月連続のマイナス、トラックも同8か月連続のマイナス、バスも同2か月連続のマイナスとなった。2019年度(令和元年度)の自動車生産は9,489,302台で4年ぶりのマイナスとなった。

4月の自動車輸出台数は前年同月比54.2%減の193,602台と大幅減となり、7か月連続で前年同月を下回った。

一方、3月の二輪車生産台数は前年同月比4.9%減の46,687台と2か月連続で前年同月を下回った。2019年度は前年度比9.1%減の569,953台と2年連続で低下した。

(一社)電池工業会の調査によると、3月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で2,179千個(前年同月比2%減)と6か月連続で低下、自動車用以外の鉛蓄電池も614千個(同5%減)と2か月連続で低下した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は2,793千個(同3%減)と6か月連続で低下した。

鉛関連製品生産統計

		2月	3月
自動車	数量(台)	769,161	828,702
	前年同月比(%)	89.0	92.0
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	15,328	14,757
	前年同月比(%)	92.7	87.4

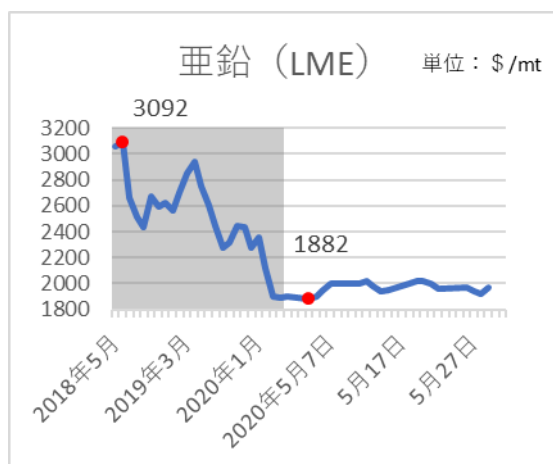
2018年度計(平成30年度計):自動車 9,489,302台(前年度比2.7%減)、自動車用鉛蓄電池 鉛量 189,203t(同5.6%減、4年ぶりの前年度比減)

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- COVID-19 感染拡大の影響により依然として低水準
- 底値は3月25日\$1,774であるものの、5月は\$1,800~\$1,900台を低迷推移

(2018年5月~2020年4月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の5月20日発表によると、2020年1~3月の世界の亜鉛鉱石生産は297万t(2019年1~3月比0.5%減)、地金生産は331万t(3.2%増)、地金消費は307万t(4.0%減)で、地金需給バランスは+23.9万tの余剰だった。

この内、中国は鉱石生産が87万t(2019年1~3月比8.0%減)、精鉱輸入は48万t(27.8%増)、地金生産は150万t(8.0%増)、地金のネット輸入は7万t(50.8%減)で、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は141万t(0.1%減)となった。その他、ILZSGの主なコメントは以下の通り。

【鉍石生産】

減少要因は、主にボリビア(▲21.4%)、中国(▲8.0%)、ナミビア(▲61.2%)、トルコ(▲31.3%)、欧州(▲7.1%)での生産量減少によるもの。欧州ではフィンランド、アイルランド、ポルトガル、スウェーデンで減少した。豪州(+19.8%)、メキシコ(+9.1%)、ペルー(+3.9%)、南アフリカ(+98.9%)、米国(+12.1%)は生産量が増加した。

【地金生産】

増加要因は、中国の大幅な増加(+8.0%)によるもので、他にブラジル(+17.7%)、フィンランド(+5.4%)、ノルウェー(+4.2%)でも生産量が増加した。ペルーは生産量が減少した。

【地金消費】

減少要因は、主に欧州(▲7.3%)、インド(▲8.1%)、日本(▲12.8%)、韓国(▲26.9%)、米国(▲7.8%)などでの消費量減少によるもの。

また、ILZSGは5月20日、COVID-19感染拡大の影響により、世界の亜鉛生産量は鉍石が63万5千tの減産、地金が11万3千tの減産になる試算を発表した。国別の減産量については、以下の通り。(注)操業中止期間について会社発表がされていないものは、2か月間中止するものとして試算されている。

<COVID-19感染拡大の影響による世界の亜鉛減産量試算>

【鉱山】

(単位：千トン)

国名	通常生産能力	2020年通常生産見通し	COVID-19減産量
ポリビア	550	527	92
カナダ	190	167	42
インド	845	713	36
アイルランド	150	122	2
メキシコ	800	700	133
ナミビア	150	65	50
ペルー	1,600	1,404	240
南アフリカ	290	125	36
スウェーデン	85	67	4
合計	4,660	3,890	635

【製錬所】

(単位：千トン)

国名	通常生産能力	2020年通常生産見通し	COVID-19減産量
中国	440	—	37
インド	870	708	37
メキシコ	460	389	38
ナミビア	150	65	38
ペルー	350	344	29
合計	2,770	1,858	113

国際鉛亜鉛研究会資料を基に日本鉱業協会作成

3. 供給障害

◆ ペニョーレス、フランシスコ・イ・マデロ亜鉛鉱山の操業を停止(メキシコ)

ペニョーレス(メキシコ)は5月16日、操業コストの上昇と金属価格の低下を理由に同国サカテカス州のフランシスコ・イ・マデロ亜鉛鉱山の操業を無期限停止すると発表した。なお、この操業停止による同社の亜鉛地金の生産への影響はないとした。フランシスコ・イ・マデロ亜鉛鉱山は2001年に操業を開始、2019年は230万tの鉱石を処理し、4万2千tの亜鉛と9千tの鉛を生産した。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

4/6 256 4/10 259 4/17 262 4/23 259 5/6 262 5/12 271
5/15 265 5/20 271 5/25 268

5月はLME亜鉛相場が鉛同様、下旬にかけて上昇したが、亜鉛建値は狭い範囲内の値動きに終始した。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年4月分=令和2年4月分)

生産 : 37,808t (前月比 1.7%減、前年比 14.6%減)

出荷 : 35,379t (前月比 29.7%減、前年比 16.9%減)

在庫 : 68,648t (前月比 3.7%増、前年比 8.7%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

4月の生産は八戸製錬所の定修により前月比、前年同月比とも減。出荷は、予想通り、コロナと八戸製錬所の定修の影響が出て、前月比、前年同月比とも大幅減。前年同月比は7か月連続の減。在庫は販売減が大きく響き、前月比増、前年同月比も増。前年同月比は8か月連続の増。

3. 需要部門動向

4月の鉱工業生産指数は前月比9.1%減、前年同月比14.4%減の87.1(季節調整済、2015年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は3か月連続の低下、前年同月比も7か月連続で低下した。4月の同指数は現行基準で最大の下げ幅だった。基準年が異なるため単純比較はできないものの、下げ幅はリーマン・ショック後の8.8%低下(2009年1月)より大きかった。東日本大震災発生時の16.5%低下(2011年3月)よりは小さかった。経産省は基調判断を「生産は急速に低下」に下方修正した。

同指数は4月、15業種中14業種が低下した。自動車は前月比33.3%低下した。国内外で需要が低迷し、部品調達の停滞や工場の稼働停止も影響した。自動車メーカーの減産などが波及し、鉄鋼・非鉄金属工業も同14.3%低下した。航空機部品を含む輸送機械工業は同25.0%低下した。

4月の出荷指数は前月比8.8%減の85.0と2か月連続の減、前年同月比も15.9%減と生産と同様に7か月連続で低下した。

一方、在庫指数は前月比0.3%減の106.1、在庫率指数は前月比12.7%増の137.4となった。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、5月が前月比4.1%の低下、6月は同3.9%の上昇を見込んでいる。

3月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比が6か月連続の減となった。2019年度(令和元年度)の生産は前年度比7.7%減の9,564千tと2年連続で前年度実績を下回った。これは1986年度(昭和61年度)の8,946千t以来の低水準となった。

3月の伸銅品生産量は61,344t(確報値、以下同じ、対前年同月比▲9.2%)、(対前月比+1.2%)、対前年同月比は16か月連続のマイナス(1月▲7.5%、2月▲6.7%)。全14品種中、対前年比プラスは銅線、青銅板条、洋白その他板条の3品種。

黄銅製品では、黄銅条が 7,903t(対前年比▲14.6%)、14 か月連続の対前年比マイナス。自動車については国内外での完成車の減産や工場稼働規制による影響が懸念されている。民生用コネクタは低調が続く。黄銅棒は 13,901t、8 か月連続の対前年比マイナス(対前年比▲5.0%)。住宅設備関連需要は、建築工事の延期や在庫増などから荷動きが一層の鈍化。

2019 年度(令和元年度)の黄銅製品生産全体で 2 年連続の前年度比マイナス。2019 年度の亜鉛ダイカスト生産は 2 年連続の前年度比マイナス、亜鉛華も 4 年ぶりの前年度比減とマイナスへ転じた。

亜鉛関連製品生産統計

		2 月	3 月
亜鉛めっき鋼板	数量(千t)	765	832
	前年同月比(%)	98.2	90.7
黄銅製品	数量(t)	24,526	24,826
	前年同月比(%)	89.7	91.3
亜鉛ダイカスト	数量(kg)	1,624,190	1,320,904
	前年同月比(%)	115.6	68.9
亜鉛華	数量(t)	5,225	5,293
	前年同月比(%)	99.6	98.3

2019 年度(令和元年度): 亜鉛めっき鋼板 9,564 千 t(前年度比 7.7%減)、黄銅製品 303,607t(同 10.0%減)、亜鉛ダイカスト 17,302,396 kg(同 7.5%減)、亜鉛華 60,548t(同 4.0%減)

(出所:(一社)日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査)